

ヤコブ

の手紙

2

「行いを伴う  
生きた信仰を」

ヤコブの手紙 2章 信仰と試練と忍耐

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. えこひいきの罪 **2章1～11節**
- II. 行いのない死んだ信仰 **2章12～26節**
- III. まとめと適用

あなたの信仰に あかしはあるか？



## 【ヤコブの手紙とは？】

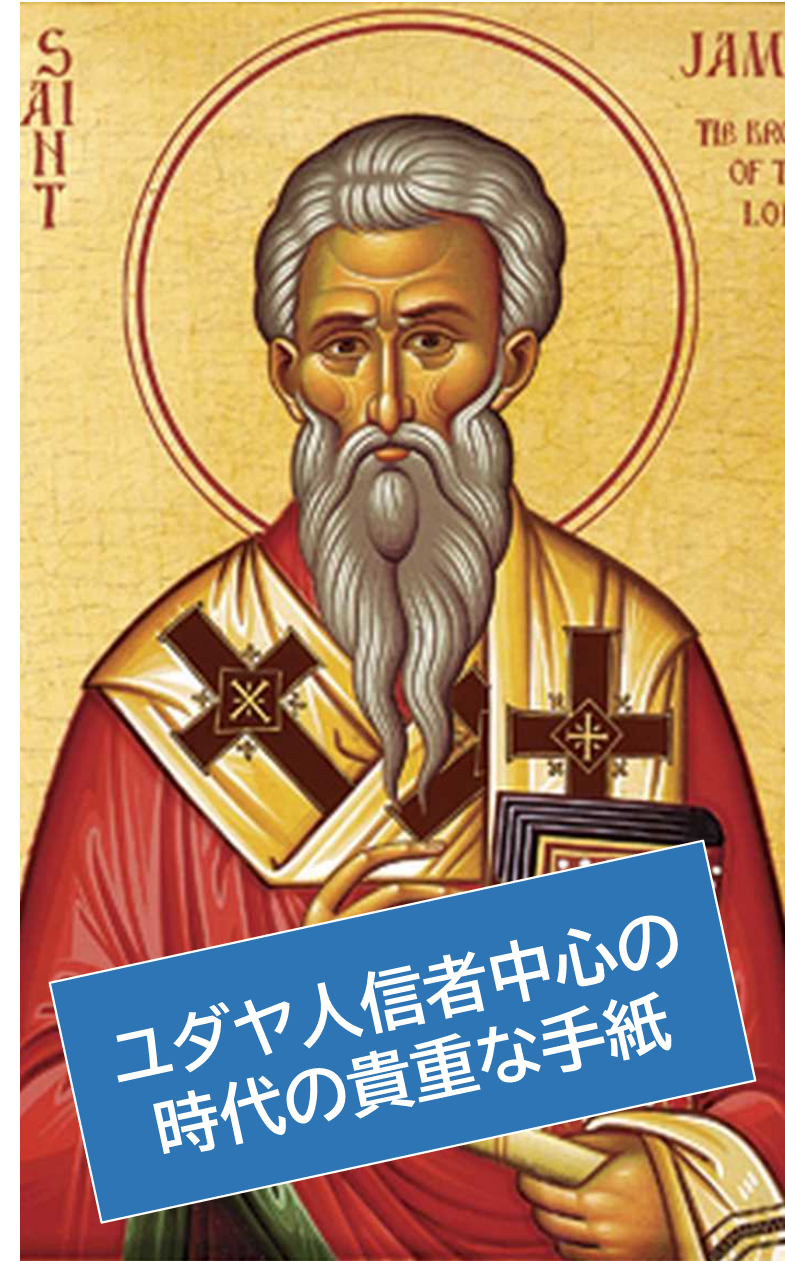
■ **著者** …イエスの実弟ヤコブ。

■ **年代** …45～49年頃。エルサレム会議前か。  
→会議の内容に言及がない!!

■ **場所** …エルサレムか。

■ **内容・目的** …信仰と行いの一致を促す。

■ **対象** …離散のユダヤ人(ディアスポラ)。



ユダヤ人信者中心の  
時代の貴重な手紙

## 【ヤコブ書を読むにあたっての基本】

■ 共同書簡。 ➡ 説教として公に読まれた手紙。

■ 旧約聖書の知識が十分あるのが大前提!!

■ 権威ある教えであり、美しい詩歌(ポエム)である。

➡ 頭で理解し、心で感じ、受け止めるもの。

■ 信仰と行いは、一致するのが当然!!

➡ 信じて救われたなら、行いとなって現れるはず。

➡ 行いを軽視するのも、行いしか見ないのも問題。



ヤコブ書の内容は、初期のキリスト者のイロハのイ

## 【ヤコブの手紙が書かれた時代背景】

- イエスの昇天後、15～20年。  
二度の大迫害があり、弟子たちは散らされていった。  
★福音は、エルサレム ➡ サマリア ➡ 異邦人へ
- この時代の教会のメンバーの中心は、ユダヤ人。
  - ① 生粋のユダヤ人
  - ② 離散のユダヤ人 (ディアスポラ)
    - ➡ 海外生まれ。国際人。ギリシャ語が堪能。
    - 熱心な人々は律法を遵守。エルサレムを巡礼。
- 対象は、多数になっていた、② 離散のユダヤ人。  
アンテオケなど、海外の有力な地域教会も誕生。  
実質的な働きは、エルサレムからアンテオケへ移行。



## 【離散のユダヤ人とギリシャ文化の影響】

■ アレンサンダー大王による支配(前333年)から始まり、  
ローマの支配(前63年)に至るまで、**ギリシャ文化の影響が拡大!**

### ■ ギリシャ文化の特徴

★ **多神教** …ギリシャ神話の神々。偶像礼拝。

★ **人間中心主義** …ギリシャ哲学。古代オリンピック。

★ **霊肉二元論** …肉体と精神を別々に捕らえる。  
精神は肉体より優れている。

← **一神教**

← **神中心**

← **一元論**

聖書的価値観

■ ギリシャ文化の影響は離散のメシアニックジューにも及んだ。

**教理的最大の問題は、メシアの受肉の否定!!**

# 【使徒の時代とヤコブの手紙】

イエスの昇天 1



聖霊降臨・ペンテコステ 2



【ユダヤ人伝道】エルサレム 2~6

聖霊降臨②

ステファノの殉教・大迫害 7



【サマリア伝道】



聖霊降臨③

サウロの回心 9



【異邦人伝道】



聖霊降臨④

ヤコブの殉教・迫害 12

伝道旅行① 13~14

エルサレム使徒会議 15

伝道旅行② 15~18

伝道旅行③ 18~20

パウロの逮捕・監禁 21~26

パウロのローマへの護送・難破 27

【ローマ伝道】 28

オーストラリアへ

パウロ (15年間)

ペテロ (15年間)

## 【ディスペンセーション(時代)の移行期にあるヤコブ書】

### ■ 律法の時代から、教会時代へ

➡ 成し遂げられたメシアの贖い

➡ 異邦人に拓かれた福音宣教の扉

(ペテロに示された律法の世界からの自由)

### ■ 律法はメシアによって完遂され、役目を終えた。

★ 教会時代に従うべきは、

**自由をもたらす完全な律法 = キリストの愛の律法。**

➡ 使徒たちが聖霊によって語り、記したものの。

### ■ しかし、多くは、律法に縛られたまま、キリストの律法の理解も不完全。

一方では、**律法主義者**が跋扈。 一方では**ギリシャ的放縦**が蔓延。

時代は変われど  
人々の心は  
追いついていない





I. えこひいきの罪

ヤコブの手紙2章1～11節

## 【えこひいき】 ヤコブ2:1~4

2:1 私の兄弟たち。あなたがたは、私たちの主、栄光のイエス・キリストへの信仰を持っていながら、人をえこひいきすることがあってはなりません。

2:2 あなたがたの集會に、金の指輪をはめた立派な身なりの人が入って来て、また、みすぼらしい身なりの貧しい人も入って来たとします。

2:3 あなたがたは、立派な身なりをした人に目を留めて、「あなたはこちらの良い席にお座りください」と言い、貧しい人には、「あなたは立っていなさい。でなければ、そこに、私の足もとに座りなさい」と言うなら、

2:4 自分たちの間で差別をし、悪い考えでさばく者となったのではありませんか。



## 【えこひいきの罪とは？】 ヤコブ2:1~4

### ■ えこひいきの結果

「2:4 自分たちの間で差別をし、悪い考えでさばく者」に

➔ イエスが批判したパリサイ人や律法学者のように。

### ■ 当時、ユダヤ人社会で優遇されていた金持ち

➔ 金持ちは、信仰深さへの神の祝福の結果とされた。

➔ 逆転をもたらしたのがイエス。

金持ちの救いより、ラクダが針の穴を通る方が容易。

(マタイ19:24他)

### ■ 貧しくも信仰深い人々をイエスは祝福された。

**えこひいきは、主イエスの教えを否定するもの!!**



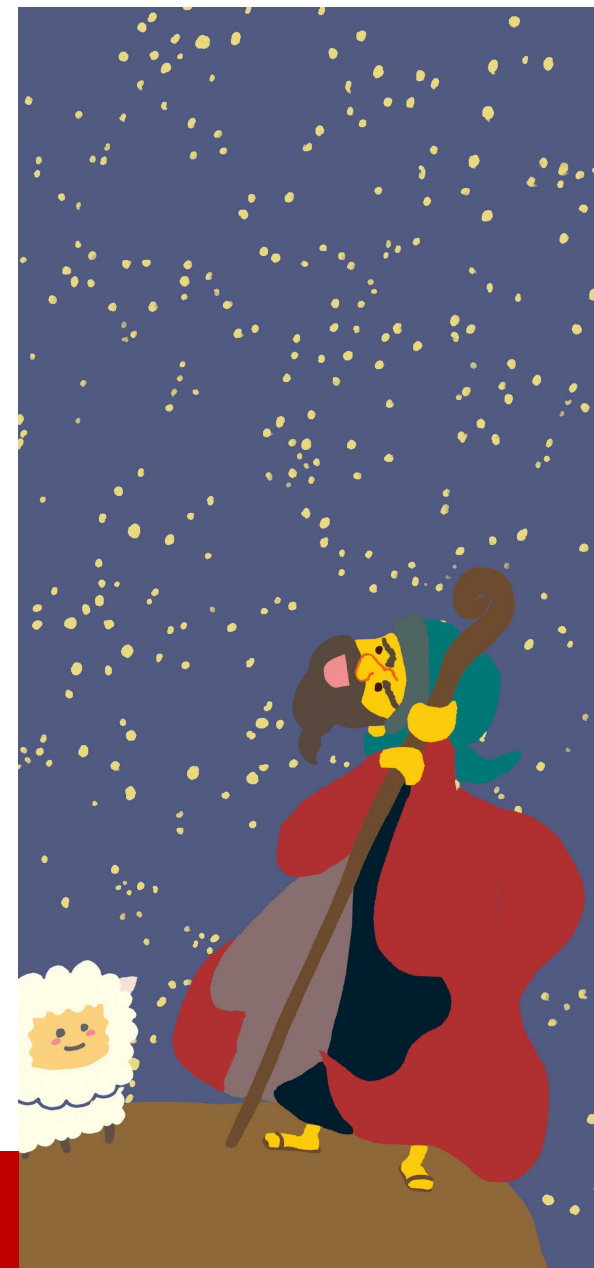
## 【貧しい民を選んだ神】 ヤコブ2:5

私の愛する兄弟たち、よく聞きなさい。神は、この世の貧しい人たち\* を選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束された御国を受け継ぐ者とされたではありませんか。

\*その代表こそ、寄留の民アブラハムの子孫であり、エジプトで奴隷だったイスラエル。

「申命記 7:7 【主】があなたがたを慕い、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実あなたがたは、あらゆる民のうちで最も数が少なかった。」

真のイスラエルが、メシアニックジュー!!



## 【えいひいきは選びの民の自己否定】 ヤコブ2:6~7

2:6 それなのに、あなたがたは貧しい人を辱めたのです。あなたがたを虐げるのは富んでいる人たち\*ではありませんか。また、あなたがたを裁判所に引いて行くのも彼らではありませんか。

2:7 あなたがたがその名で呼ばれている尊い御名を汚すのも、彼らではありませんか。

\*メシアニックジューを苦しめたのは、富んだ者たち

➡祭司、律法学者、議員、王族…。

■貧しい同胞を辱めることは、選びの民の自己否定。

さらには、イスラエルのメシアをも否定すること!!



## 【えこひいきは律法違反の罪】 ヤコブ2:8~9

2:8 もし本当に、あなたがたが聖書にしたがって、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という最高の律法を守るなら、あなたがたの行いは立派です。

2:9 しかし、もし人をえこひいきするなら、あなたがたは罪を犯しており、律法によって違反者として責められます。

■「レビ記19:18 あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。わたしは【主】である。」

■「レビ記 19:15 不正な裁判をしてはならない。弱い者をひいきしたり強い者にへつらったりしてはならない。あなたの同胞を正しくさばかなければならない。」



## 【えこひいきの罪を軽んじるな】 ヤコブ2:10~11

2:10 律法全体を守っても、一つの点で過ちを犯すなら、その人はすべてについて責任を問われるからです。  
2:11 「姦淫してはならない」と言われた方は、「殺してはならない」とも言われました。ですから、姦淫しなくても人殺しをすれば、あなたは律法の違反者になっているのです。

- モーセの律法は、613の条項全部で一つ。  
一つでも違反すれば全体を違反したことになる!!

**えこひいきの罪を軽んじてはならない!!**





**Ⅱ. 行いのない死んだ信仰 2章12～24節**



## 【キリストの愛の律法】 ヤコブ2:12~14

2:12 **自由をもたらず律法\*** によってさばかれることになる者として、ふさわしく語り、ふさわしく行いなさい。

2:13 **あわれみ**を示したことがない者に対しては、あわれみのないさばきが下されます。**あわれみ**がさばきに対して勝ち誇るのです。

2:14 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に**行い**がないなら、何の役に立つでしょうか。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。

**\*キリストの愛の律法** ➡律法以上に問われる信仰の本質

■あわれみ、行い。その信仰は愛に基づいているのか？



## 【信仰は行いを伴う】 ヤコブ2:15~17

2:15 兄弟か姉妹\* に着る物がなく、毎日の食べ物にも事欠いているようなときに、あなたがたのうちのだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹になるまで食べなさい」と言っても、からだに必要な物を与えなければ、何の役に立つでしょう。

2:17 同じように、信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです。

### \* 信仰の兄弟姉妹。

■ 確認されているのは、ユダヤ人には当然の大原則。

➡ 信仰を行いと分けられると考えることがおかしい。



## 【行いのない信仰などない】 ヤコブ2:18~19

2:18 しかし、「ある人には信仰があるが、ほかの人には行いがあります」と言う人がいる\* でしょう。行いのないあなたの信仰を私に見せてください。私は行いによって、自分の信仰をあなたに見せてあげます。

2:19 あなたは、神は唯一だと信じています。立派なことです。ですが、**悪霊どもも信じて、身震いしています。\***

\*こう主張する人々が大きな影響を与えていた。

\***行いのない信仰は、悪霊どもと変わらない。**

■あなたの信仰に、具体的なあかしはあるか？

知的コメントにとどまる ➡行いに欠けているから!!



## 【行いを伴う信仰による義】 ヤコブ2:20～21

2:20 ああ愚かな人よ。\* あなたは、行いのない信仰が無益なことを知りたいのですか。

2:21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇に献げたとき、**行いによって義と認められた**ではありませんか。

\*「ユダヤ人なのにこんなことも知らないのか」

『ロマ 4:3 (聖書には)「アブラハムは神を**信じた**。

**それで、それが彼の義と認められた**』とあります。』

■ヤコブとパウロは、同じ大前提の上に告げている。

➡**信仰は行いを伴う。決して分けられないもの。**



## 【行いによる信仰の完成】 ヤコブ2:22~24

2:22 あなたが見ているとおり、信仰がその行いと  
ともに働き、**信仰は行いによって完成されました。**

2:23 「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の  
義と認められた」という聖書のことばが実現し、彼は  
神の友と呼ばれたのです。

2:24 人は行いによって義と認められるのであって、  
**信仰だけによるのではない**ことが分かるでしょう。

■アブラハムは旅に出た。イサクをささげた。

➡アブラハムの行いが、信仰の確かなあかし。



## 【行いのない死んだ信仰】 ヤコブ2:25～26

2:25 同じように遊女ラハブ\* も、使者たちを招き入れ、別の道から送り出したので、その行いによって義と認められたではありませんか。

2:26 からだが霊を欠いては死んでいるのと同じように、**信仰も行いを欠いては死んでいるのです。**

\*ルツの夫ボアズの祖母。ダビデ王家、メシアのルーツ。

■あなたの信仰は、行いを伴う生きた信仰なのか？

行いを欠いた死んだ信仰なのか？

**あなたの信仰には、生きたあかしがあるのか？**





Ⅲ. まとめと適用 あなたの信仰に あかしはあるか？

## 【信仰と行い】

- 信仰と行いは不可分。信仰は行いによって完成される。
- アブラハムも、ラハブも、聖書の信仰者は皆、行いの人だった。
- 律法の本質は愛。真実の愛は行いを伴う。  
キリストの愛の律法においては、さらに信仰の本質が問われる。
- あなたの信仰は、行いを伴う生きた信仰なのか？ 問われている。



## 【ヤコブとパウロの一致】

『ヤコブ2:21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇に献げたとき、**行いによって義と認められた**ではありませんか。』

『ロマ 4:3 聖書は何と言っていますか。「アブラハムは神を**信じた**。それで、それが彼の**義と認められた**」とあります。』

- 信仰は、一方的な神の恵みの約束を信頼しての、**具体的応答**。  
アブラハムは、主を信じ、旅立ち、ひとり子イサクをささげた。
- 信仰とは主の約束を信頼すること。信仰は必ず行いを伴う。  
ヤコブとパウロの信仰は、美しく調和し、完全に一致している。

## 【行いを伴わない偽の信仰がもたらす弊害】

■ 行いを欠いた信仰ほど、偽善、形式主義に陥りがち。

➡ 行いを欠いているから、形だけの信仰になる。

行いのない信仰の実が、形骸化した礼拝・名ばかりの信仰生活。

■ 知識だけの聖書研究は、行いに欠けた、死んだ信仰でしかない。

もっともらしい説明やコメントはあっても、行いに欠けているなら？

■ 問われるのは、「そこに、あかしはあるか？」ということ。

行動しなければ何も起こらない。行いのない人は、あかしができない。

■ あかしとは、福音宣教の使命に生きた者を通して結ばれた実。

## 【聖書の求める行いとは何か？】

■何か「いいこと」をするのが、行いではない。

➡クリスチャンには、「世の行い」への誘惑がある。

福音宣教を世は評価してくれない。「いいこと」なら評価される。

例)とあるリベラルの牧師の地方での宣教の結果。

■未信者にどんなに親切にしても、福音を信じなければ救われない。

福音を伝えなければ、信じようがない。

■未信者になすべき最大の行いは、福音を告げることには他ならない。

今の教会時代に、クリスチャンに求められる最大の行いは？

➡福音を告げ、御言葉を解き明かすこと。

## 【福音宣教の使命から問われるクリスチャンの信仰の本質】

- 「主イエス・キリストは、あなたの罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、復活された」 福音宣教こそ、一番に求められる行い。
- 真理を伝えるとき、問われるのは、自分の信仰が真実かどうか。家族や友人。身近な人への伝道ほど、ごまかしは効かない。自分の変化や成長という行いを伴わない、死んだ信仰に力はない。
- 一方で、身近な人ほど、あなたの変化は絶対に伝わる。小さな変化でも、家族だからこそ、気づいてくれる。
  - ➡ 家族伝道は確かに難しい。一方、救いに一番近い道でもある。要は、あなたが変われば、福音の真理は着実に伝わるのだから。

## 【あなたの信仰生活に、あかしはあるか？】

■あかしは、行いを伴う信仰が結んだ実。

「誰かに福音を告げる」という具体的な行いがいない人に、あかしはない。

例) 家族、友人に手紙を出し続けてきたMさんのあかし。

■行いの伴わない信仰は死んでいる。

伝道という言葉を曖昧にしていないか。伝道とは、福音を告げること。

福音宣教を行わないクリスチャン、教会の信仰は死んでいる。

■神の愛は、絶対に行いを伴う。愛の神の約束は、絶対に守られる。

ただ福音を信じて救われた者は、信じて行えば必ず変えられていく。

**福音宣教の使命に生きよう。主が必ず豊かな実を結ばれる。**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

この信仰の実を結ばせてください。

福音宣教の使命に生きる、行いを伴う生きた信仰者としてください。

わたしは、主の弟子として、主に従い、歩みます。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」